

2020年 1 月19日 実施

令和元年度（第62回）
情 報 処 理 検 定 試 験
〈プログラミング部門〉
第 2 級 試 験 問 題

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は 9 ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 は共通問題です。
5. 【7】 の問題は J a v a ・ マクロ言語のいずれか一つを選択し、解答用紙の選択言語を ☐ で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は50分です。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

受 験 番 号

1. 磁気ディスク装置において、アクセスアームを動かさずに読み書きできる同心円状の記録領域の集まり。
2. ネットワークシステムにおいて、サービスを提供する側と利用する側とで構成されるネットワーク形態。
3. 音声データを、音源と同等の音質を保ちながら容量を圧縮できるファイル形式。
4. ガラスやプラスチックなどの素材で構成されており、データを長距離かつ高速に伝送可能な通信ケーブル。
5. コンピュータのプロセッサが直接解釈して実行できる形式の言語。

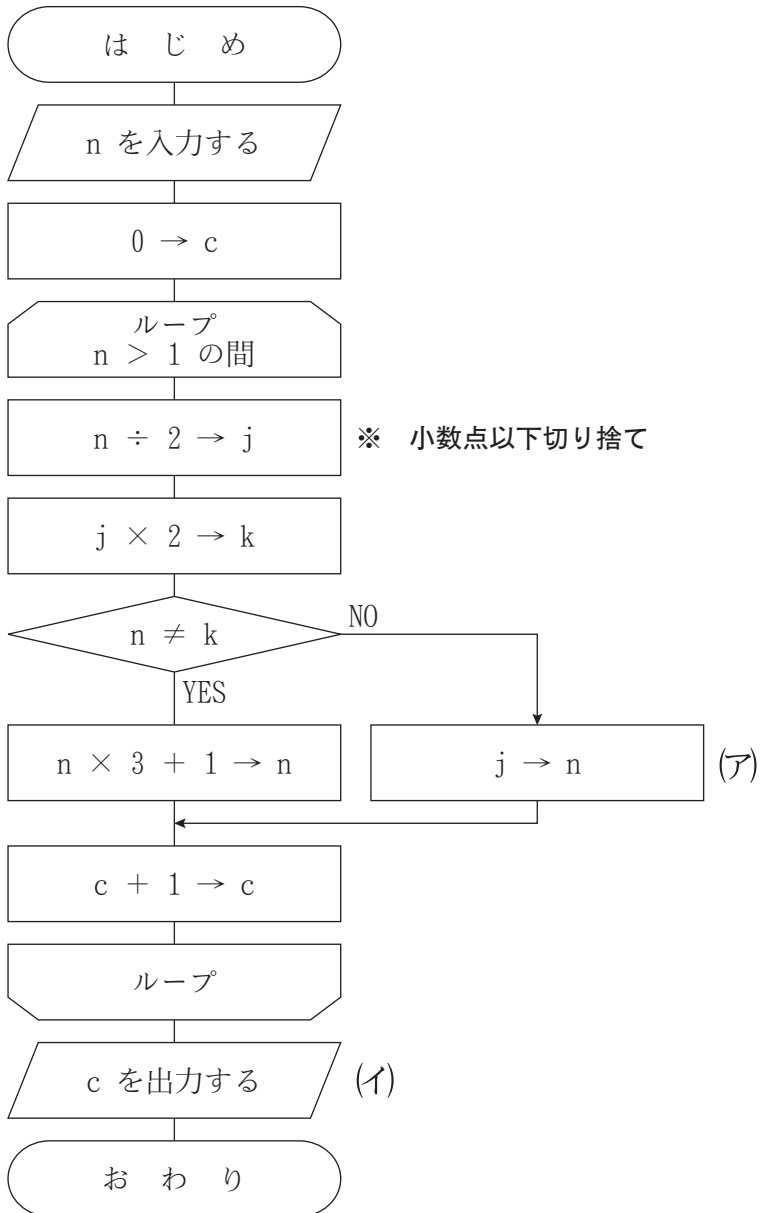
ウ. C A T V
力. M P 3
ケ. 機械語

- 10進数の 5 と 2 進数の 1 0 1 0 との積を表す10進数。
ア. 15 イ. 50 ウ. 100
- ファイル名の末尾に付けられるもので、ファイルの種類を識別する文字列。
ア. サブディレクトリ イ. ルートディレクトリ ウ. 拡張子
- 日本国内の産業の発展を目的として、産業製品に関する規格や測定法などを定めた国家規格。
ア. I S O イ. J I S ウ. A N S I
- ファイルやディレクトリへの読み書きや削除などのすべての操作が行えるアクセス権限。
ア. フルコントロール イ. 書き込み ウ. 読み取り
- 対象データの値が、設定された上限と下限の範囲に収まっているかを確認する検査。
ア. トータルチェック イ. シーケンスチェック ウ. リミットチェック

【 4 】 流れ図にしたがって処理するとき、(1)～(5)を答えなさい。なお、入力する n の値は 2 以上の整数とする。

- (1) n の値が 6 のとき、(ア)の処理を 2 回目に実行したあとの n の値を答えなさい。
- (2) n の値が 6 のとき、(イ)で出力される c の値を答えなさい。
- (3) n の値が 13 のとき、(ア)の処理を何回実行するか答えなさい。
- (4) n の値が 13 のとき、(イ)で出力される c の値を答えなさい。
- (5) 流れ図の処理について説明した文のうち、正しいものはどれかア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。
 - ア. 処理を終了したとき、 k の値は必ず 1 である。
 - イ. 処理を終了したとき、 n の値は必ず 1 である。
 - ウ. 処理を終了したとき、 n の値は必ず c 以上である。

<流れ図>



【 5 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

ある日帰り温泉施設の 1 か月分の来客者数データを読み、来客者数一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

日付 (Hiduke)	大人 (Otona)	子供 (Kodomo)	シニア (Sinia)
× ×	× × ×	× × ×	× × ×

(第 1 図)

実行結果

(来客者数一覧)					
(日付)	(大人)	(子供)	(シニア)	(人数)	(売上金額)(評価)
1	412	167	258	837	583,300
2	793	162	208	1,163	898,700 ○
...	...	...	...	...	...
29	433	171	298	902	624,200
30	851	352	420	1,623	1,151,900 ◎
(人数の合計)				32,306	
(人数が最大の日付)				16日	
(人数の最大)				1,639	

(第 2 図)

処理条件

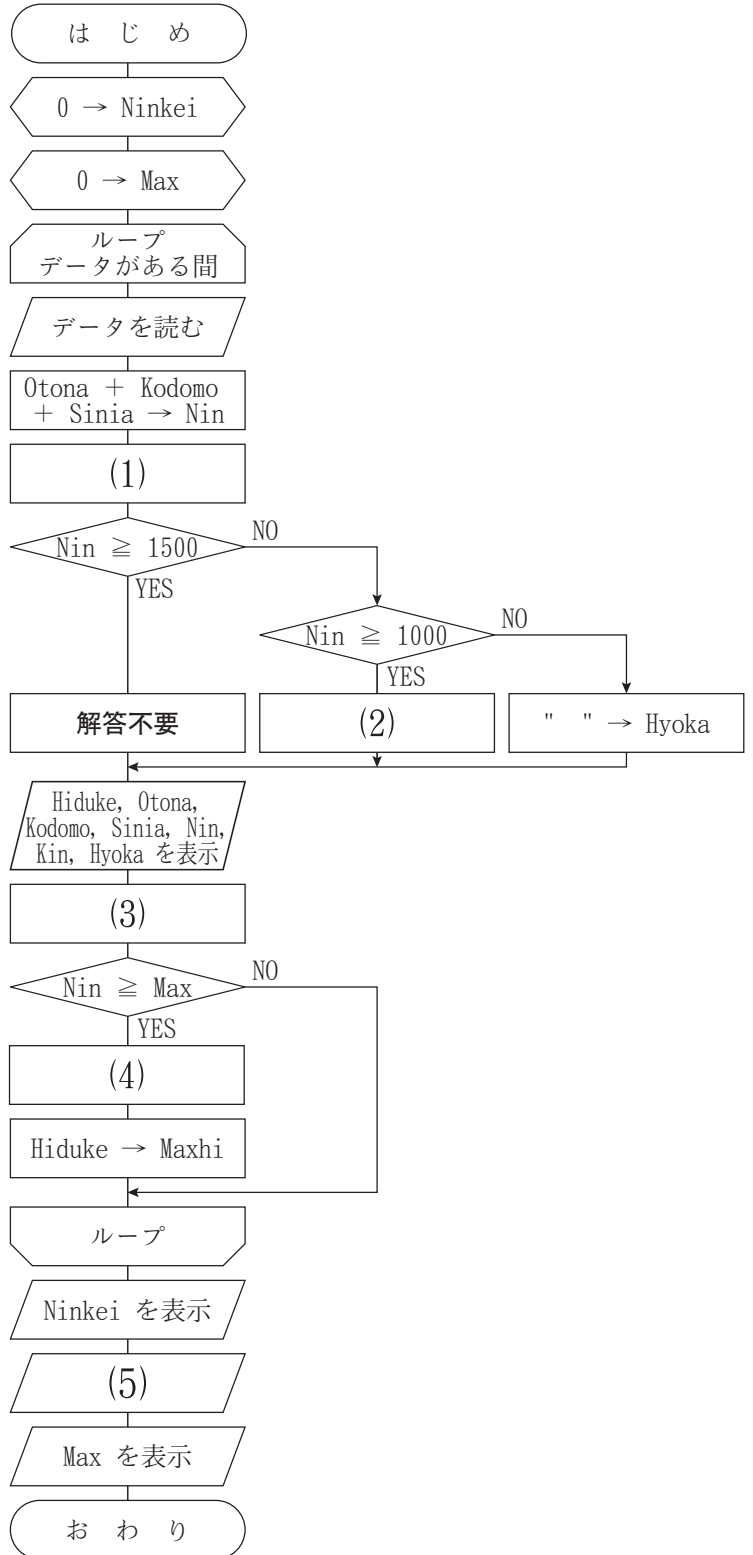
- 第 1 図の入力データを読み、人数と売上金額を次の計算式で求め、第 2 図のように表示する。なお、評価は人数が 1500 以上の場合は ◎ を、1000 以上 1500 未満の場合は ○ を表示する。

$$\text{人数} = \text{大人} + \text{子供} + \text{シニア}$$

$$\text{売上金額} = \text{大人} \times 900 + (\text{子供} + \text{シニア}) \times 500$$

- 入力データが終了したら、人数の合計、人数が最大の日付、人数の最大を第 2 図のように表示する。なお、最大は同じ人数があった場合、後に入力されたデータを優先する。
- データにエラーはないものとする。

<流れ図>



解答群

- ア. Sinia → Max
- イ. "○" → Hyoka
- ウ. Otona × 900 + (Kodomo + Sinia) × 500 → Kin
- エ. Ninkei + 1 → Ninkei
- オ. Nin → Max
- カ. Ninkei + Nin → Ninkei
- キ. Otona × 500 + (Kodomo + Sinia) × 900 → Kin
- ク. Maxhi, "日" を表示
- ケ. "◎" → Hyoka
- コ. Nin, "日" を表示

【 6 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

ある小学校の 1 か月間の図書貸出データを読み、学年別集計一覧とジャンル別図書貸出一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

学年 (Gaku)	組 (Kumi)	番号 (Ban)	ジャンルコード (Jcode)	図書コード (Tcode)
×	×	×	×	×

(第 1 図)

実行結果

(学年別集計一覧)				
(学年)	(児童数)	(貸出数計)	(学年平均)	(備考)
1年生	100	840	8	*
2年生	70	280	4	
3年生	70	280	4	
4年生	96	576	6	*
5年生	90	272	3	
6年生	90	272	3	
(全校あたりの月平均貸出数)			5	

(ジャンル別図書貸出一覧)	
(ジャンル名)	(貸出数計)
小説・物語	223
伝記	175
百科事典	101
年鑑・雑誌	122

(第 2 図)

処理条件

- 第 1 図の学年は 1 (1年生) ～6 (6年生) の 6 種類である。なお、ジャンルは20種類である。
- 配列 Gnin に学年の児童数を、配列 Jcod にジャンルコードを、配列 Jmei にジャンル名を記憶する。なお、Gnin(0) には、全校の児童数を記憶する。また、Gnin の添字は学年と対応し、Jcod と Jmei の添字は対応している。

配列

Gnin	(0)	(1)	(2)	～	(5)	(6)
	551	100	70	～	96	90
	(全校)	(1年生)	(2年生)		(5年生)	(6年生)

Jcod	(0)	(1)	(2)	～	(19)	(20)
		A01	A02	～	E03	F01

Jmei	(0)	(1)	(2)	～	(19)	(20)
		小説・物語	伝記	～	百科事典	年鑑・雑誌

- 第 1 図の入力データを読み、次の処理を行う。
 - 学年ごとに配列 Gakuhei に貸出数を集計する。なお、Gakuhei(0) には合計を求める。また、Gakuhei の添字は学年と対応している。

配列

Gakuhei	(0)	(1)	(2)	～	(5)	(6)
				～		

(合計)

- ジャンルコードをもとに配列 Jcod を探索し、配列 Jankei にジャンル別の貸出数を集計する。なお、Jankei の添字は Jcod の添字と対応している。

配列

Jankei	(0)	(1)	(2)	～	(19)	(20)
				～		

- 入力データが終了したら、次の処理を行う。
 - 全校あたりの月平均貸出数を次の計算式で求める。

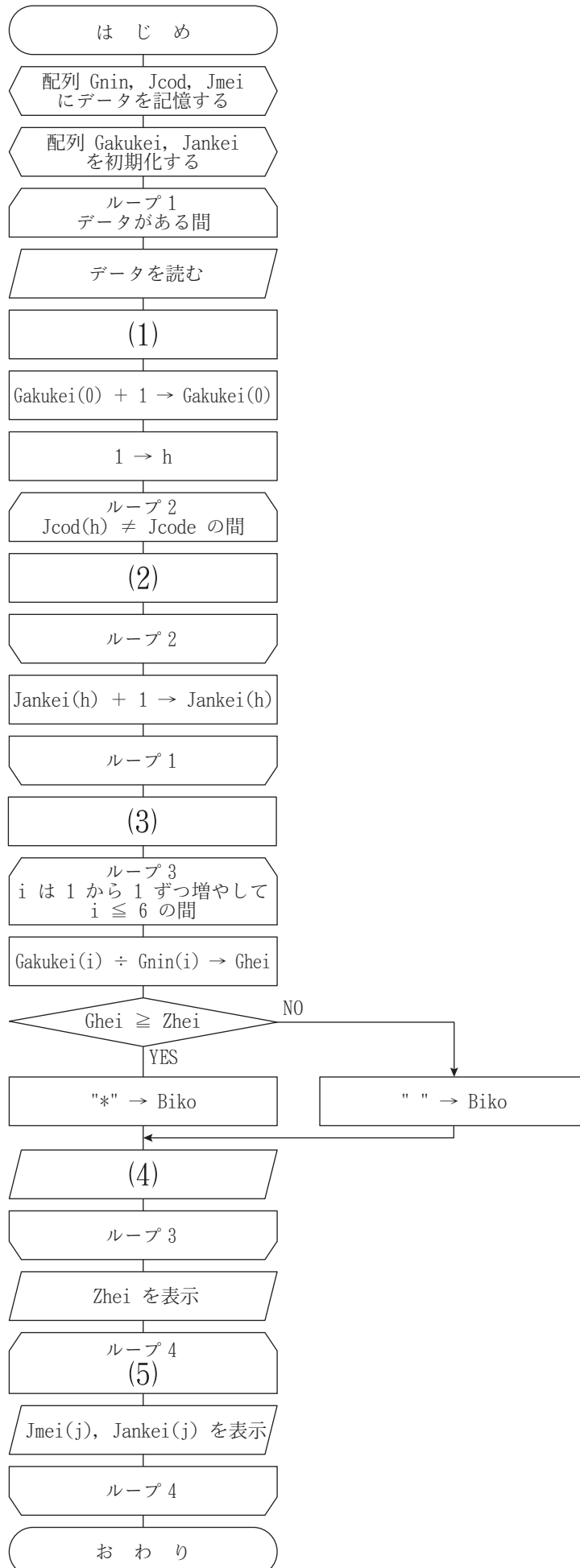
$$\text{全校あたりの月平均貸出数} = \frac{\text{貸出数の合計}}{\text{全校の児童数}}$$
 - 学年ごとに学年平均を次の計算式で求め、学年から備考までを第 2 図のように表示する。なお、備考は学年平均が全校あたりの月平均貸出数以上の場合は * を表示する。

$$\text{学年平均} = \frac{\text{学年ごとの貸出数計}}{\text{学年の児童数}}$$
 - 全校あたりの月平均貸出数を第 2 図のように表示する。
 - ジャンルごとにジャンル名と貸出数計を第 2 図のように表示する。
- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. i, "年生", Gnin(i), Gakuhei(i), Ghei, Biko を表示
 イ. j は 1 から 1 ずつ増やして $j \leq 20$ の間
 ウ. $Gakuhei(0) \div Gnin(h) \rightarrow Zhei$
 エ. $h - 1 \rightarrow h$
 オ. $Gakuhei(Gaku) + 1 \rightarrow Gakuhei(Gaku)$
 カ. i, "年生", Gnin(i), Jankei(i), Ghei, Biko を表示
 キ. $Gakuhei(0) \div Gnin(0) \rightarrow Zhei$
 ク. j は 1 から 1 ずつ増やして $j < 20$ の間
 ケ. $Gakuhei(Ban) + 1 \rightarrow Gakuhei(Ban)$
 コ. $h + 1 \rightarrow h$

< 流れ図 >



【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

ある料理学校の受講者データを読み、集計結果を表示する。

入力データ

受講者データ (ファイル名: jukosya.csv)

受付コード	学校番号	受講コード
××××	×	×××

(第1図)

実行結果

```

学校番号(1～3)を入力してください => 1
分野番号(1:調理, 2:製菓, 3:すべて)を入力してください => 1
東京校 【調 理】
講座名      定員      受講者数計      充足率      受講料計
日本料理A    20         19         95.0%        875,000
日本料理B    30         27         90.0%       1,252,500
}             }             }             }
トルコ料理   10         10        100.0%        460,000
                                     合計      8,500,000

学校番号(1～3)を入力してください => 2
分野番号(1:調理, 2:製菓, 3:すべて)を入力してください => 3
千葉校 【すべて】
}
学校番号(1～3)を入力してください => 0
    
```

(第2図)

処理条件

- 第1図の受付コードは、次の例のように構成されている。なお、会員区分は 0 (非会員) ～2 (継続会員) である。

例 1 2 1 1 → 1 2 1 1
 受付番号 会員区分

- 第1図の学校番号は、1 (東京校) ～3 (栃木校) である。

- 第1図の受講コードは、次の例のように構成されている。なお、分野番号は 1 (調理) と 2 (製菓) の2種類であり、講座番号は、分野ごとに 1～10 の連番である。

例 1 0 8 → 1 0 8
 分野番号 講座番号

- 配列 gMei に学校名を記憶する。なお、gMei の添字は学校番号と対応している。

配列

gMei	(0)	(1)	(2)	(3)
		東京校	千葉校	栃木校

- 学校情報を管理する Gakkou クラスをインスタンス化し、配列 gk に記憶する。なお、gk の添字は学校番号と対応している。

配列

gk	(0)	(1)	(2)	(3)

- 配列 bMei に分野名を、配列 kMei に講座名を、配列 tSu に定員を記憶する。なお、bMei の添字は分野番号と対応し、kMei と tSu の添字は対応している。また、bMei(3) は すべて を記憶する。

配列

bMei	(0)	(1)	(2)	(3)				
		調 理	製 菓	すべて				
kMei	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)	
		日本料理A	～	トルコ料理	和菓子A	～	洋菓子C	
tSu	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)	
			20	～	10	20	～	20
		(調理)				(製菓)		

- 第1図の受講者データを読み、次の処理を行う。

- 配列 jSu に受講者数を集計する。なお、jSu の添字は配列 kMei の添字と対応している。

配列

jSu	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)
			～			～	

- 受講料を次の計算式で求め、配列 jRyokei に集計する。なお、会員区分が 0 の場合は、割引なし、1 の場合は、5%割引、2 の場合は、10%割引とし、jRyokei(0) には合計を求める。また、jRyokei の添字は配列 kMei の添字と対応している。

$$\text{受講料} = 50000 \times (1 - \text{会員区分} \times 0.05)$$

配列

jRyokei	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)
			～			～	
	(合計)						

- データを読み終えたあと、キーボードから学校番号と分野番号が入力されたら、次の処理を行う。なお、分野番号で 3 が入力された場合は、すべての講座を表示する。

- 学校名と分野名を第2図のようにディスプレイに表示する。
- 講座ごとに充足率を次の計算式で求め、講座名から受講料計までを第2図のようにディスプレイに表示する。

$$\text{充足率} = \text{受講者数計} \times 100 \div \text{定員}$$

- 受講料計の合計を第2図のようにディスプレイに表示する。

- キーボードから学校番号として 0 が入力されたら処理を終了する。

< J a v a プログラム >

// クラス Gakkou

```

public class Gakkou {
    public static String[] bMei = { "", "調 理", "製 菓", "すべて" };
    public static String[] kMei = { "", "日本料理A", " ～ "トルコ料理", "和菓子A", " ～ "洋菓子C" };
    public static int[] tSu = { 0, 20, ～ 10, 20, ～ 20 };
    public int[] jSu = new int[21];
    public int[] jRyokei = new int[21];
    public String gMei;
    public Gakkou(String gMei) {
        this.gMei = gMei;
    }
    public void syukei(int uCod, int jCod) {
        int kKu = uCod % 10;
        int bBan = jCod / 100;
        int soe = (bBan - 1) * 10 + jCod % 100;
        jSu[soe] = jSu[soe] + 1;
        int jRyo = (int) (50000 * (1 - kKu * 0.05));
        jRyokei[soe] = (1);
        jRyokei[0] = jRyokei[0] + jRyo;
    }
    public void output(int hajime, int owari, int bBangou) {
        int gokei = 0;
        System.out.printf("%-3s 【%-3s】 ¥n", gMei, bMei[bBangou]);
        System.out.println(" 講座名      定員    受講者数計    充足率      受講料計");
        for(int m = hajime; (2); m++) {
            double jRitu = (double) jSu[m] * 100 / tSu[m];
            System.out.printf("%-5s      %3d      %3d      %5.1f%      %9d¥n", kMei[m], tSu[m], jSu[m], (3), jRyokei[m]);
            (4);
        }
        System.out.printf("                                合計  %10d¥n", gokei);
    }
}

```

// クラス JukoBunseki

import java.io.BufferedReader;

```

{

public class JukoBunseki {
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        String[] gMei = { "", "東京校", "千葉校", "栃木校" };
        Gakkou[] gk = new Gakkou[4];
        for(int i = 1; i <= 3; i++) {
            gk[i] = new Gakkou(gMei[i]);
        }
        BufferedReader fileIn = new BufferedReader(new FileReader("jukosya.csv"));
        String line;
        while((line = fileIn.readLine()) != null) {
            String[] str = line.split(",");
            int uCod = Integer.parseInt(str[0]);
            int gBan = Integer.parseInt(str[1]);
            int jCod = Integer.parseInt(str[2]);
            (5).syukei(uCod, jCod);
        }
        fileIn.close();
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        System.out.print("学校番号(1～3)を入力してください => ");
        int gBangou = sc.nextInt();
        while(gBangou != 0) {
            System.out.print("分野番号(1:調理, 2:製菓, 3:すべて)を入力してください => ");
            int bBangou = sc.nextInt();
            int owari;
            int hajime;
            if (bBangou <= 2) {
                owari = bBangou * 10;
                hajime = owari - 9;
            } else {
                owari = 20;
                hajime = 1;
            }
            gk[gBangou].output(hajime, owari, bBangou);
            System.out.print("学校番号(1～3)を入力してください => ");
            gBangou = sc.nextInt();
        }
        sc.close();
    }
}

```


【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

ある携帯電話販売店の商品データと 1 か月分の売上データを読み、集計結果を表示する。

入力データ

商品データ (ファイル名: syohin.csv)

商品コード	商品名	単価
×××	×～×	××××××

(第 1 図)

売上データ (ファイル名: uriage.csv)

日付	商品コード	会員区分
××××	×××	×

(第 2 図)

ユーザーフォーム・実行結果

<メーカー別集計>		<メーカー内商品分析>	
メーカー名	売上金額計	入力欄	
A 社	1,637,800	メーカー番号	メーカー名
B 社	529,350	1	A 社
C 社	1,460,200	(TextBox1)	(Label13)
合計	3,627,350		
	(Label11)		
割引き金額合計	269,650	商品名	売上金額計
	(Label12)		売上比率
		DK01M	171,000
		PW01K	296,450
		SH02M	60,800
		LS01L	113,100
		}	}
			(TextBox2)
		売上比率が10%以上の商品数	4
			(Label14)

(第 3 図)

処理条件

- 第 1 図の商品データは、商品コードの昇順に記録されている。なお、第 1 図と第 2 図の商品コードは、次の例のように構成されている。また、メーカー番号は 1 (A 社) ～ 3 (C 社) の 3 種類であり、商品番号はメーカーごとに 1～10 の連番である。

例 1 0 4 → 1 0 4
メーカー番号 商品番号

- 第 2 図の会員区分は、0 (非会員) ～ 2 (プレミアム会員) である。
- ユーザーフォーム初期化時に次の処理を行う。
 - 配列 Mmei にメーカー名を記憶する。なお、Mmei の添字はメーカー番号と対応している。また、Mmei(0) は すべて を記憶する。

配列

Mmei	(0)	(1)	(2)	(3)
	すべて	A 社	B 社	C 社

- 第 1 図の商品データを読み、配列 Smei に商品名を、配列 Tanka に単価を記憶する。なお、Smei, Tanka の添字は対応している。

配列

Smei	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)	(21)	～	(30)
		DK01M	～	NS01L	AH01M	～	AH04L	GC03L	～	XW01M

Tanka	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)	(21)	～	(30)
		60000	～	68000	49000	～	61000	90000	～	50000

- 第 2 図の売上データを読み、売上金額を次の計算式で求め、メーカーごとに配列 Muri に、商品ごとに配列 Suri に集計する。なお、会員区分が 0 の場合は、割引きなし、1 の場合は、5%割引き、2 の場合は、10%割引きとし、Muri(0) には合計を求める。また、Muri の添字はメーカー番号と、Suri の添字は配列 Smei の添字と対応している。

$$\text{売上金額} = \text{単価} \times (1 - \text{会員区分} \times 0.05)$$

配列

Muri	(0)	(1)	(2)	(3)
	(合計)			

Suri	(0)	(1)	～	(10)	(11)	～	(20)	(21)	～	(30)
			～			～			～	

- 割引き金額を次の計算式で求め、割引き金額合計を集計する。

$$\text{割引き金額} = \text{単価} - \text{売上金額}$$
 - データを読み終えたあと、メーカーごとにメーカー名と売上金額計を Label11 に表示する。
 - 売上金額計の合計を Label11 に表示する。
 - 割引き金額合計を Label12 に表示する。
- 第 3 図のように、表示したいメーカー番号を TextBox1 に入力し、「表示」ボタンをクリックすると次の処理を行う。なお、0 を入力した場合は、すべての商品を表示する。
 - メーカー名を Label13 に表示する。
 - 商品名ごとに売上比率を次の計算式で求め、商品名から売上比率までを TextBox2 に表示する。

$$\text{売上比率} = \text{商品名ごとの売上金額計} \times 100 \div \text{メーカー名ごとの売上金額計}$$
 - 売上比率が10%以上の商品数を求め、Label14 に表示する。

```
Option Explicit
Dim Mmei(3) As String, Smei(30) As String, Muri(3) As Long, Suri(30) As Long

Private Sub UserForm_Initialize()
    Dim e As Long, Scode As Long, Tanka(30) As Long, Hi As Long, Kku As Long, Mban As Long, Soe As Long, Uri As Long
    Dim Wari As Long, Warikei As Long, f As Long
    Mmei(0) = "すべて": Mmei(1) = "A社  ": Mmei(2) = "B社  ": Mmei(3) = "C社  "
    Label1.Caption = "": Label2.Caption = ""
    Call Syokika
    Open ThisWorkbook.Path & "¥syohin.csv" For Input As #1
    Do While Not EOF(1)
        e = e + 1
        Input #1, Scode, Smei(e), Tanka(e)
    Loop
    Close #1
    Open ThisWorkbook.Path & "¥uriage.csv" For Input As #2
    Do While Not EOF(2)
        Input #2, Hi, Scode, Kku
        Mban = Int(Scode / 100)
        Soe = (Mban - 1) * 10 + Scode Mod 100
        Uri = Tanka(Soe) * (1 - Kku * 0.05)
        Muri(Mban) = (1)
        Muri(0) = Muri(0) + Uri
        Suri(Soe) = Suri(Soe) + Uri
        Wari = Tanka(Soe) - Uri
        (2)
    Loop
    Close #2
    For f = 1 To 3
        Label1.Caption = Label1.Caption & Mmei(f) & "          " & _
            Format(Format(Muri(f), "#,###,##0"), "#####") & Chr(13) & Chr(10)
    Next f
    Label1.Caption = Label1.Caption & "      合計      " & Format(Format((3), "#,###,##0"), "#####")
    Label2.Caption = Format(Warikei, "#,###,##0")
End Sub

Private Sub 表示_Click()
    Dim Nban As Long, Owari As Long, Hajime As Long, g As Long, Uhi As Double, Cnt As Long
    Nban = Val(TextBox1.Text)
    Label3.Caption = Mmei(Nban)
    If Nban >= 1 Then
        Owari = Nban * 10
        Hajime = Owari - 9
    Else
        Owari = 30
        Hajime = 1
    End If
    For g = (4)
        Uhi = Suri(g) * 100 / Muri(Nban)
        TextBox2.Text = TextBox2.Text & Smei(g) & "          " & _
            Format(Format(Suri(g), "#,###,##0"), "#####") & "          " & _
            Format(Format(Uhi, "##0.0"), "####") & "%" & Chr(13) & Chr(10)

        If Uhi >= 10 Then
            Cnt = Cnt + 1
        End If
    Next g
    Label4.Caption = (5)
End Sub

Private Sub クリア_Click()
    Call Syokika
End Sub

Private Sub 終了_Click()
    End
End Sub

Private Sub Syokika()
    TextBox1.Text = "": Label3.Caption = "": TextBox2.Text = "": Label4.Caption = ""
End Sub

(注) 使用例 Format(Format(1234.5, "###,##0.0"), "#####")
          ↳ 「1,234.5」
          ↳ 「 1,234.5」
```

(令和2年1月19日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

令和元年度（第62回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級
解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

小 計

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		回		

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

小 計

..... [J a v a] ・ [マ ク ロ 言 語]

【7】

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語	小 計	合 計
		J a v a マクロ言語		

選択言語を で囲むこと

(令和2年1月19日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

令和元年度（第62回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級

審査基準

【1】

1	2	3	4	5
ア	ク	カ	エ	ケ

各2点
計10点

【2】

1	2	3	4	5
コ	イ	エ	キ	オ

各2点
計10点

【3】

1	2	3	4	5
イ	ウ	イ	ア	ウ

各2点
計10点

小 計
30

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
5	8	7 回	9	イ

各3点
計15点

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ウ	イ	カ	オ	ク

各3点
計15点

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
オ	コ	キ	ア	イ

各3点
計15点

小 計
45

..... [J a v a] ・ [マクロ言語]

[J a v a] (注) =, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	j R y o k e i [s o e] + j R y o
(2)	m <= o w a r i
(3)	j R i t u
(4)	g o k e i = g o k e i + j R y o k e i [m]
(5)	g k [g B a n]

[マクロ言語] (注) 大文字, 小文字および=, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	M u r i (M b a n) + U r i
(2)	W a r i k e i = W a r i k e i + W a r i
(3)	M u r i (0)
(4)	H a j i m e T o O w a r i
(5)	C n t

各5点 計25点

小 計
25

合 計
100